

令和3年度

高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議資料

国立障害者リハビリテーションセンター

令和3年6月23日

於：Web会議形式

令和3年度 第1回支援コーディネーター全国会議
(高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業)

開催日時：令和3年6月23日(水) 13:00~16:00

開催方法：Web会議方式

対象者：高次脳機能障害支援拠点機関に所属する支援コーディネーター等

- 1 開 会
- 2 開会あいさつ 13:00-13:05
国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター長
- 3 講演 ピア活動の意味と高次脳領域のピア活動に関する実態調査について 13:05-14:05
特定非営利活動法人あすなろ 相談支援専門員 彼谷 哲志 氏
エスポアール出雲クリニック アドバイザー 太田 令子 氏
- 4 実績報告会 14:10-14:30
山梨県の取り組み
山梨県高次脳機能障害者支援センター 支援コーディネーター 平原 由梨子 氏
- 〈休憩〉 14:30-14:40
- 5 グループ討論会（地域の支援者向け事例検討会の持ち方について）
① 課題説明 14:40-14:50
② グループ討議 14:50-15:25
③ 発表 15:25-15:45
④ 質疑応答・意見交換 15:45-15:55
- 6 閉会あいさつ 15:55-16:00
- 7 閉 会

目 次

I 講 演

ピア活動の意味と高次脳領域のピア活動に関する実態調査について

特定非営利活動法人あすなろ相談支援専門員 彼谷哲志 氏 1

エスポアール出雲クリニックアドバイザー 太田令子 氏 11

II 実績報告会

山梨県の取り組み 21

山梨県高次脳機能障害者支援センター

支援コーディネーター 平原由梨子 氏

ピア活動の意味と
高次脳領域のピア活動に関する
実態調査について

彼谷哲志 特定非営利活動法人あすなる



わたしの普段の仕事について

- 特定非営利活動法人あすなる（2012～現在）
- 三田市障害者総合相談窓口きいてネット（2017～現在）
 - あすなるから派遣されて、相談支援専門員として配置
- 主に精神や発達障害のある人と家族、支援者と関わる。精神疾患のない同僚の相談員と動きは変わらないが、自身の障害や経験は開示、経験や立場性を意識。

わたしのメンタルヘルス

- 高校中退、大学はバーンアウト、昼夜逆転、留年。
- 過労によるめまいから受診。今年で向精神薬服用21年。

- 精神科医からそううつ病（双極性障害）と言われている。
- 疲れ具合がイマイチわからない。がんばって活動しては年単位での療養生活やパフォーマンス低下をくりかえす。

ピアスタッフ普及の活動、相談支援

- 日本メンタルヘルスパイサポート専門員研修機構・研修企画委員（2015～）
- 平成28～30年度厚生労働科学研究「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究」研究協力者（2016～）
- 平成30年障害者総合福祉推進事業「ピアサポートを担う人材の活用を推進するための調査研究及びガイドライン作成のための研究」委員
- 第7回全国ピアスタッフの集い実行委員会 実行委員長（2018）
- 令和2年相談支援の質の向上に向けた検討会WG（2020）

自助グループに出会うまでの経緯

- 2回目の精神科入院で**離職**と**離婚**、関東から関西に戻る。
 - 辺鄙な自然豊かな里山の実家生活でひきこもり（**孤立**）。
 - **人を求める気持ち**と同時に**人と話すことに不安と恐れ**。
-
- 主治医から居場所スペースを紹介され、ときどき通う
 - 居場所の仲間たちと地元社協の協力を得て自助グループを作る（セルフヘルプグループ「おにぎり」）

活動

歴代のお題

オープン就労 vs クローズド就労

履歴書空白期間をどう埋める？

年金を切られる基準って？

3分間診療を乗り切る医師とのコミュニケーション術

夜更かしをやめる方法please

こころの波と生活リズム

病気を周囲にどのように理解してもらうか？

活動は？

- 月1の例会を中心に活動
- 例会は原則毎月第3土曜日の午後
- 市民センター貸会議室を利用
- 不定期でレクリエーション

例会は？

- 自己紹介と近況 + お題トークで構成
- 自己紹介はアイスブレイク集を利用 3つ選んで自己紹介
- 今の気分を漢字一文字.....etc
- お題トーク（テーマトーク）
 - 参加者から話したいテーマを募る
 - ない場合に備えて事前にテーマを用意

兵庫県三田市

人口約11万4千人(H22末)
精神障害者352人
自立支援医療(精神通院) 914人

市内の精神医療機関

精神科病院 x 3
精神科クリニック x 4
デイケア x 2

市内の精神保健の社会資源

自助グループ x 2
家族会 x 1
就労支援施設 x 4
※ 主な利用者が精神障害のみ

沿革

2010

2013.3.20
がやがやクッキング in 里山

2010.4.7

第1回例会

2011

2012

2013

2013.2.16

第47回例会



セルフヘルプグループ「おにぎり」

ホワイトボード

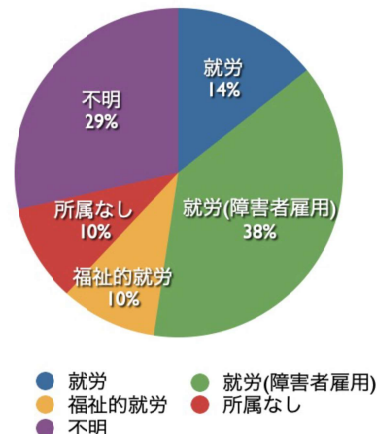
- 可視化重要！
- 話が詰まると、ボードを見ればイイボードがないと下を向いちゃう
- 「人」ではなく「デキゴト」に焦点を当てやすくなる
- 最後はなんかやってる感がある

今後

- 「当事者研究」をやってみたい
- 当事者向けの啓発活動
 - 研修会の企画など
- レクリエーションを充実させたい
- 参加者層を増やして、バラエティあふれる例会を開けるようにしたい

● 年間参加者数：63人 (2012/03-2013/02)

- 1回の平均参加者：5.3人
- 実人数：21人
- 男女比は半々
 - ※ 以前は男性が多かった
- 仕事は一般就労をしている者が多い（障害者雇用を含む）
- 初期のメンバーは発症から10年かそれ以上の当事者が多かったが、ここ1年は発症間もない人の参加もある
- 診断病名(自己申告での)は双極性障害がいちばん多く、次いで統合失調症、不安障害、発達障害など



参加者層

沿革

兵庫県三田市
人口約11万4千人(H22末)
精神障害者352人
自立支援医療(精神通院) 914人

市内の精神医療機関
精神科病院 × 3
精神科クリニック × 4
デイケア × 2

市内の精神保健の社会資源
自助グループ × 2
家族会 × 1
就労支援施設 × 4
※ 主な利用者が精神障害のみ

2010

2013.3.20
がやがやクッキング in 里山

2010.4.7
第1回例会

2011

2012

2013

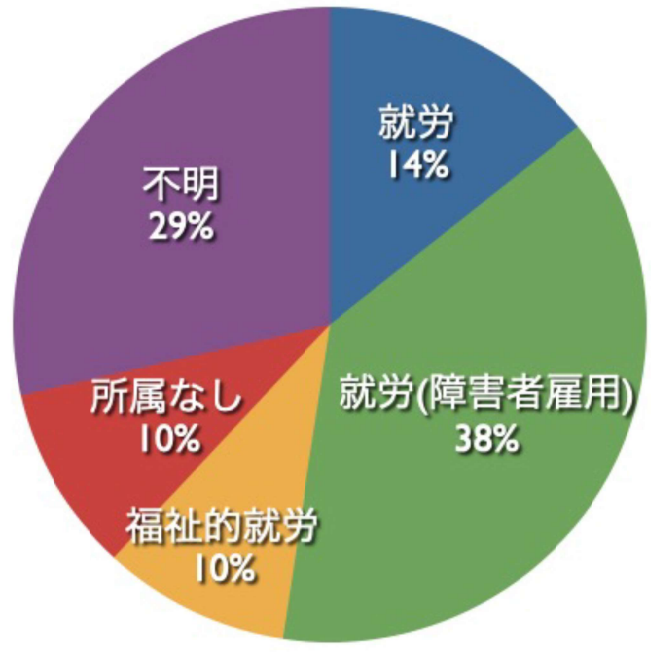


2013.2.16
第47回例会

フ
グループ

ぎり」

- 年間参加者数：63人 (2012/03-2013/02)
- 1回の平均参加者：5.3人
- 実人数：21人
- 男女比は半々
※ 以前は男性が多かった
- 仕事は一般就労をしている者が多い
(障害者雇用を含む)
- 初期のメンバーは発症から10年かそれ以上の当事者が多かったが、ここ1年は発症間もない人の参加もある
- 診断病名(自己申告での)は双極性障害がいちばん多く、次いで統合失調症、不安障害、発達障害など



- 就労
- 福祉的就労
- 不明
- 就労(障害者雇用)
- 所属なし

参加者層

活動

歴代のお題

オープン就労 vs クローズド就労

履歴書空白期間をどう埋める？

年金を切られる基準って？

3分間診療を乗り切る医師との
コミュニケーション術

夜更かしをやめる方法please

こころの波と生活リズム

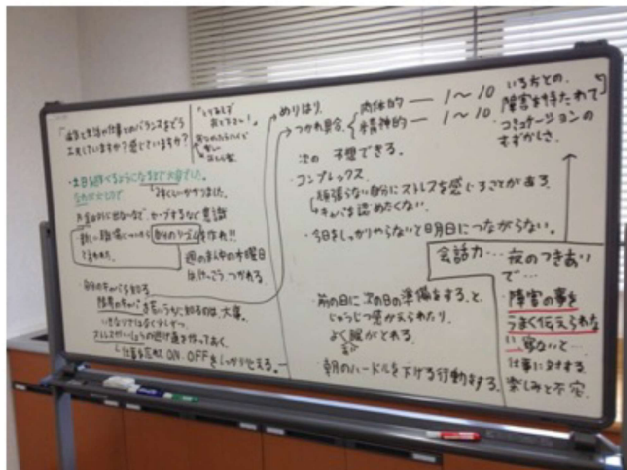
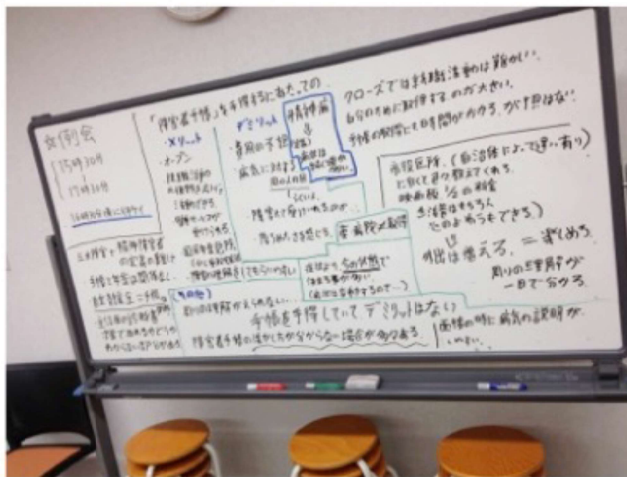
病気を周囲にどのように理解してもらうか？

活動は？

- 月1の例会を中心に活動
- 例会は原則毎月第3土曜日の午後
- 市民センター貸会議室を利用
- 不定期でレクリエーション

例会は？

- 自己紹介と近況 + お題トークで構成
- 自己紹介はアイズブレイク集を利用
3つ選んで自己紹介
今の気分を漢字一文字.....etc
- お題トーク（テーマトーク）
 - 参加者から話したいテーマを募る
 - ない場合に備えて事前にテーマを用意



ホワイトボード

- 可視化重要！
- 話が詰まると、ボードを見ればイ
ボードがないと下を向いちゃう
- 「人」ではなく「デキゴト」に
焦点を当てやすくなる
- 最後はなんかやってる感がある

今後

- 「当事者研究」をやってみたい
- 当事者向けの啓発活動
 - 研修会の企画など
- レクリエーションを充実させたい
- 参加者層を増やして、バラエティあ
る例会を開けるようにしたい

セ
ヘルプ

「おに

ピア、仲間の存在

- 友人とは少し違う。
- 同じような立場や経験をもっている人同士
- 説明しなくても背景を分かってもらいやすい
- マイノリティはとくに仲間が重要。身近に理解してもらえない人が少ない。
- 生き方の参考になる人。

11

同じ当事者だと伝えたのに

1. 太郎「私も精神障害の当事者です。」
2. 花子「そうなんですね」
3. 太郎「入院したこともあります」
4. 花子「わたしは病気かも知れないけれど入院するほどではなかったの、あなたとは違いますね」

→ 花子さんにとって「あなたとわたしは違う」感覚

12

わたしとあなたは同じで違う

1. 「わたしとあなたは同じ」
2. 「わたしとあなたは違う」
3. 「わたしとあなたは同じ」と

「わたしとあなたは違う」の両方がある

1は違和感を感じる。2は違うところが強調されて信頼関係ができにくい。3が良いような気がする。

13

不安を共感へ、ピアサポート

1. 同じ病気や障害であることは自動的に安心感につながらない
2. 当事者に対しても、自分のことを分かってもらえるのだろうか？という不安があることが多い
3. 自分の「経験」を語り、当事者から聴いてもらい受け入れられることで、自分のことを分かってもらえると安心する
4. 他の当事者が語る「経験」を聴いて共感できる
5. くりかえすことで他の当事者との違いを尊重できる

平井秀幸, 「いかにして「当事者」は「仲間(ピア)になるのか? 少年院における「矯正教育プログラム(薬物非行)の質的分析」『四天王寺大学紀要』第60号(2015年9月)

14

社会的な孤立に対する意義

●同じような課題を抱える人たちとつながれる

- 自分ひとりではなかった**発見**と**安心感**
- 弱さを絆**にできることが**強み**になる

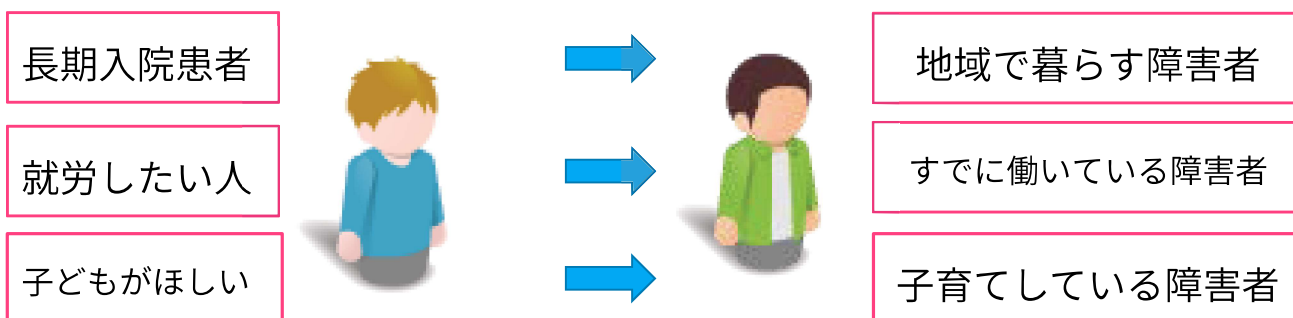
●普段は話せない気持ち・出来事を言葉にできる

- 周囲からの**偏見**、周囲に対する**壁**を感じて暮らしている
- どうせわかってもらえない、なりやすい
- 人に話すことで**人への信頼**を取り戻せる、**自信**がつく

ロールモデル (role model)

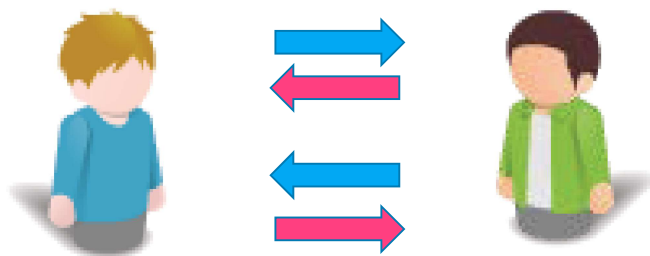
●未来が見えにくい時に先行く仲間は**道しるべ**なる。

●誰にでも通用する万能なロールモデルは存在しない。**多様性**が大事。



他者をサポートすることでの意義

- ヘルパー・セラピー原則
 - 人は援助をすることで最も援助を受ける（リースマン, 1965）
- 課題を抱えること自体が他者を援助できる前提になる



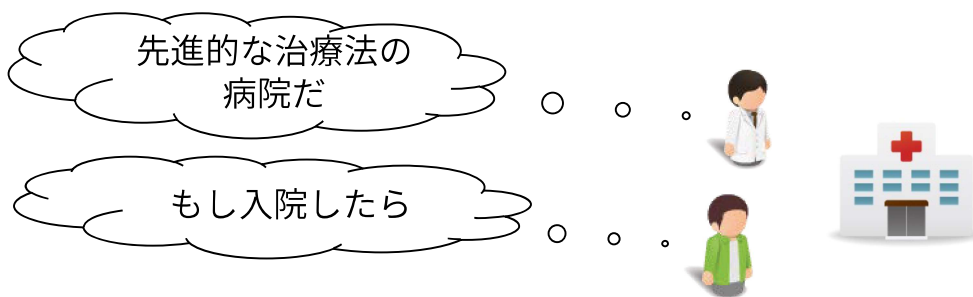
仲間の誰かサポートすることが、
自分をサポートする事になる
しかも、障害がない人にはできない

専門職主導ではないグループ運営の意義

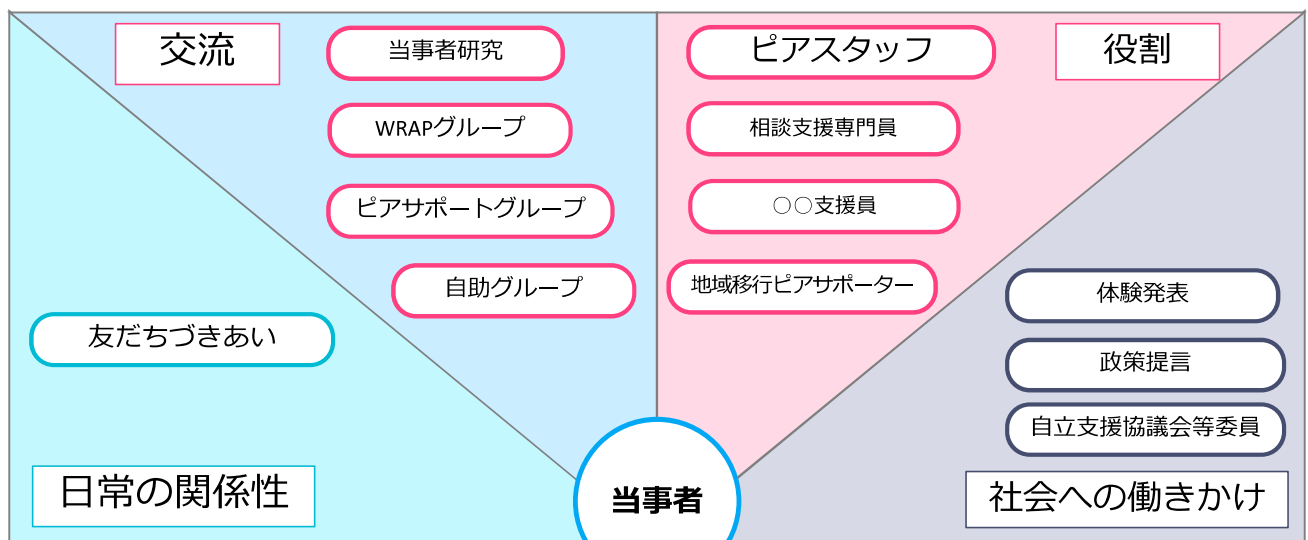
- 運営方法は自分たちで話し合う、工夫する
 - DIY (Do It Yourself) のような感覚。自治。
 - 意見の違い、関わり方の違いなどで摩擦は起きる
-
- 治療されるのではなく、自分たちで成長する
 - 安心できる場で人間関係のわずらわしさを取り戻せる

権利擁護、ユーザーの視点の例

- サービスや医療の利用経験があることで、**自分が安心できない環境を人に勧めない**という当たり前を実現しやすい
- (私の例) 持ち物制限が厳しい病院を積極的に勧めることは少ない。



多様な当事者の活動



日常の関係性を経験していることは他の活動によい影響

活動に上下・優劣はない。自分に合う活動をすることが大事。

高次脳機能障害者の ピアサポート活動に関する実態調査から見てきたもの (2020年度 自賠責運用益拠出事業から)

分担研究者: 太田 令子(エスポアール出雲クリニック)

本研究メンバー

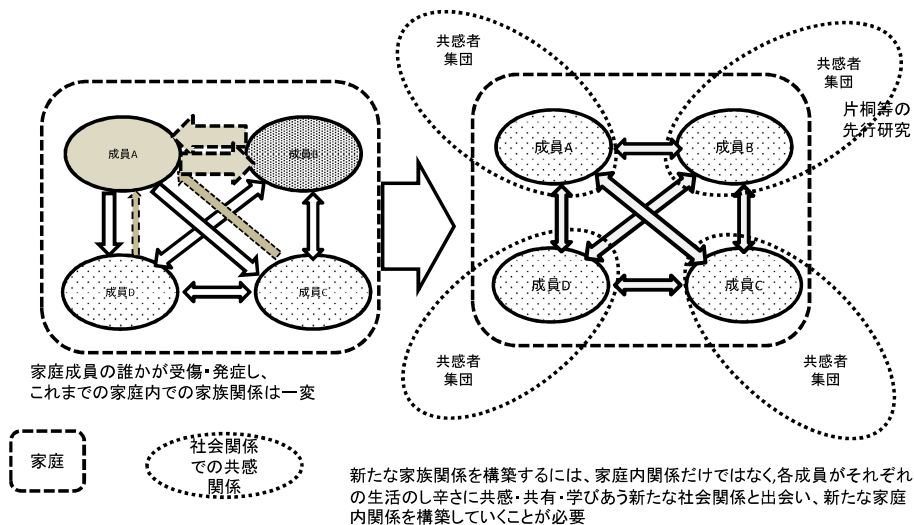
主任研究者: 高橋 幸男(エスポアール出雲クリニック)

分担研究者: 太田 令子(エスポアール出雲クリニック) 片桐 伯真(聖隷三方原病院) 武居 光雄(諏訪の杜病院)

納谷 敦夫(なやクリニック) 野村 忠雄(富山県高次脳機能障害支援センター)

長谷川 幹(三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック) 堀間 幸子(いわて高次脳機能障害者の会・イーハトーブ)

本研究を企画した背景



突然の受傷・発症後 当事者が孤立しない支援

- 過去の自分と現在の自分との断絶に混乱
⇒現状の自分が過去の自分との関係で不
適応を起こす
- 家庭成員の中で、自分だけが障害を持ってし
まったことからくる不適応
- 社会(家庭)生活場面で感じる生活のし辛さと孤
立感

孤独からの解放⇒対等・平等な関係である
‘仲間’との出会いによる共感力の育成

高次脳機能障害支援の分野での 課題

- 1.他障害(主として精神障害・身体障害)でのセルフヘルプグループ活動が歴史を
重ねてきているのに比べて、高次脳機能障害分野では支援自体の歴史が浅く、セ
ルフグループ活動の実態が把握できていないのではないか？
- 2.高次脳機能障害分野では、当事者の社会適応支援は進んできているが、社会参
加(当事者の社会的関係での居場所)については、まだまだ取り組みが全国に及ん
でいないのではないか？

社会適応⇔社会参加という考えが前面に出すぎていないか？
社会参加と社会適応は車の両輪

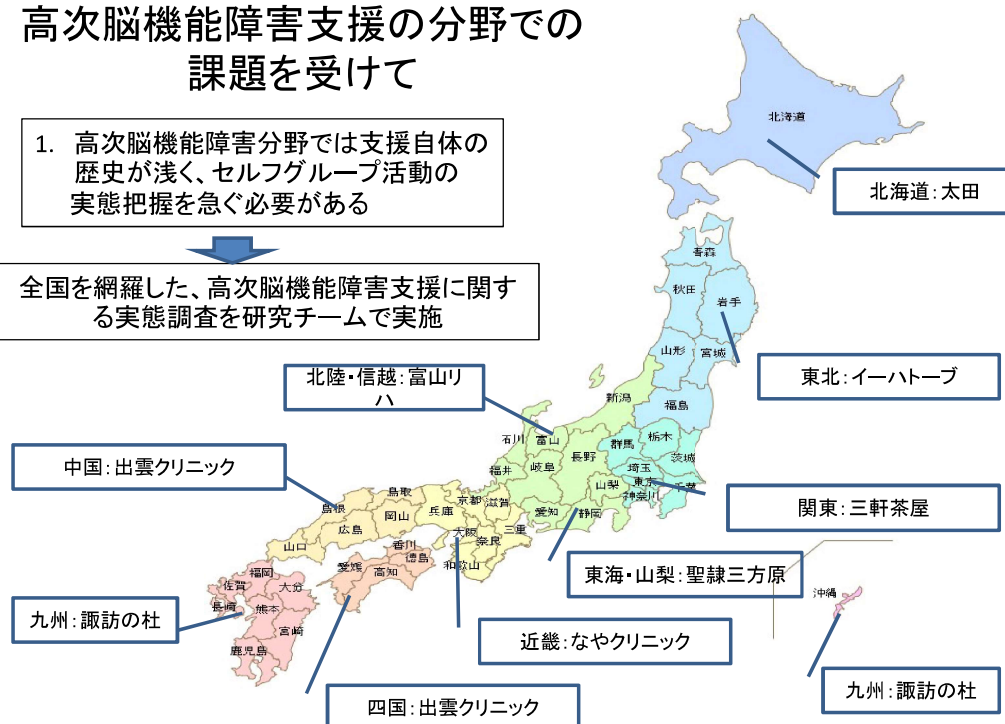
(中学校では学校生活に適応できずパニックを起こしていたが、配慮してもらえる高校に進学できて)学
校でもいろいろと委員会活動や講座に参加……今までは参加したくても機会がなかったのですが、今は
やりたい気持ちがあればやらせてもらえるので、とてもうれしいのではないかと思います。パニックは
起こしていません。

【今年高校生になったご家族の声】

高次脳機能障害支援の分野での課題を受けて

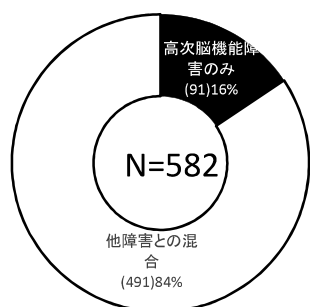
1. 高次脳機能障害分野では支援自体の歴史が浅く、セルフグループ活動の実態把握を急ぐ必要がある

全国を網羅した、高次脳機能障害支援に関する実態調査を研究チームで実施



支援機関の当事者グループ活動把握状況を知るためのアンケート調査結果(暫定)報告から

2020年12月～2021年3月に、全国都道府県の2362ヶ所の支援機関・事業所に実施したアンケート形式で実態調査用紙を送付
このうち790件(2021年4月時点)の回答を得た



高次脳機能障害者を支援対象にしている機関・事業所は582ヶ所(73.7%)

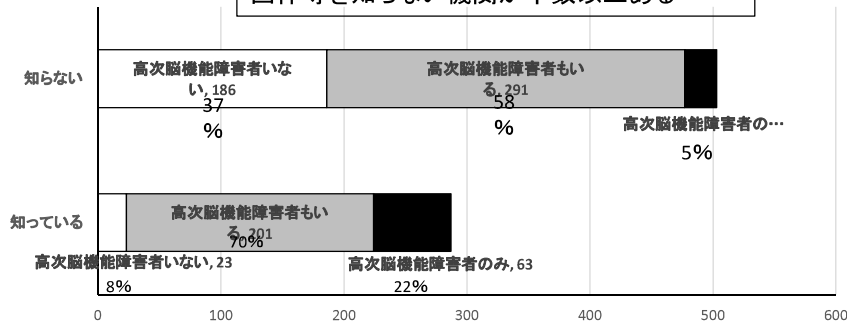
このうち、高次脳機能障害者のみを単独支援している機関は91ヶ所

支援を必要としている多くの高次脳機能障害者は、他障害者との混合支援でサービスを利用している

高次脳機能障害者支援事業所・団体を「知っている」「知らない」別にみた回答機関・事業所の支援対象者について

高次脳機能障害当事者活動そのものが地域に存在しないことも考えられる

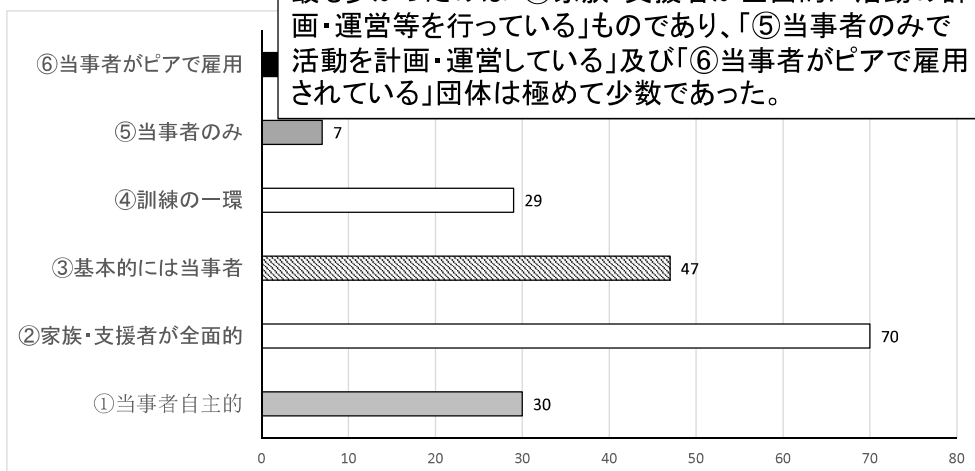
高次脳機能障害者も支援対象としているが高次脳機能障害者の当事者活動をしている団体等を知らない機関が半数以上ある



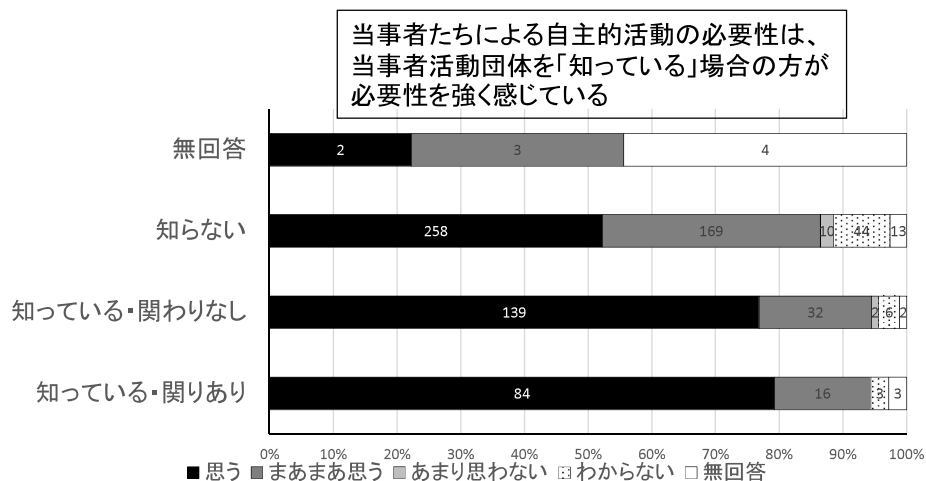
高次脳機能障害者支援の活動形態について

何らかの活動形態記が載されている団体=159団

同一団体で複数の活動形態がある場合は、それぞれの当事者活動形態に重複カウントしている。最も多かったのは「②家族・支援者が全面的に活動の計画・運営等を行っている」ものであり、「⑤当事者のみで活動を計画・運営している」及び「⑥当事者がピアで雇用されている」団体は極めて少数であった。



高次脳機能障害当事者活動への関わりの有無と 当事者の自主的活動の必要性の感じ方について



自助グループ活動にしていくための課題

(暫定集計)

(1) 当事者活動団体を知っている群

詳細な分析はできていないが、多かった意見の概括を示す

①社会的制度・環境に関して: 高次脳機能障害に関する情報を社会的に周知する/高次脳機能障害当事者の自主的活動の支援ネットワークの構築

②支援機関等に関して: 支援対象者の障害特性の理解と支援スキルの向上/活動環境に関する支援(安心できる場づくり等)/継続的支援体制と支援スタッフの確保

③活動団体そのものに関して: 活動環境づくり/財政・運営に関する課題/活動そのものを支える人材育成/継続的活動と支援窓口の整備

当事者の自主的活動の 自助グループ活動にしていくための課題

(暫定集計)

(2)当事者活動団体を知らない群

- ①社会的制度・環境に関して: 地域への情報発信や理解/地域アメニティー(交通手段の整備/人口過疎による支援困難に対する工夫)
- ②支援機関等に関して: 支援対象者の障害特性の理解と支援スキルの向上/継続的支援体制と支援スタッフの確保/運営や活動資金の援助
- ③活動団体そのものに関して: 財政・運営に関する課題/活動の場の確保や参加しやすい活動内容/継続的活動をするための仲間づくりや人材育成/活動目的の共有と明確化

高次脳機能障害者支援における 自主的(セルフヘルプ)活動育成に関する提案

- 各自治体で設置されている「高次脳機能障害支援ネットワーク」に障害当事者の参画を検討できないか？(Nothing About us without us:2006年国連で採択された「障害者権利条約」の合言葉)
- 自治体内で当事者活動に関する様々な情報を共有できる手段が工夫できないか？
- 他障害領域でのピアサポート活動に学ぶ機会を作りながら、高次脳機能障害領域でもピアサポーター養成に向けての取り組みを検討できないか？
- 多くの支援事業所内で実施されている当事者支援のメニューに、訓練・社会適応等の視点だけでなく、当事者たちの出会いの場として‘ゆったり’‘のんびり’の時間(少人数でも気持ちが許せる社会参加の体験)を意図的に組み込めないか？

厚労省の動き

参考資料
1

ピアスペシャリストが提供する サービスの効果の有効性

- (1)利用者への効果
- (2)ピアスペシャリストへの効果
- (3)サービスの質への効果
- (4)他専門職者及び精神保健システム全体への効果

以上4点に整理することが出来る。

平成22年度障害者総合福祉推進事業
「ピアサポートの人材育成と雇用管理等の体制整備のあり方に関する調査と
ガイドラインの作成」

7. 精神障害者に対する支援について

(3) 精神障害者の地域生活の支援

- 地域移行や地域生活の支援に有効なピアサポートを担う人材等の育成・活用を進めるとともに、地域生活を支援する観点等から医療と福祉との連携を強化する必要がある。
- 精神障害者の地域移行や地域生活において有効とされるピアサポートについては、自治体ごとに取り組みられている状況がある。
- 地域移行や地域生活の支援に有効なピアサポートについて、その質を確保するため、ピアサポートを担う人材を養成する研修を含め、必要な支援を行うべきである。

障害者総合支援法施行3年後の見直しについて～社会保障審議会障害者部会報告書～(平成27年12月14日)より

ヒアリング団体一覧

5月29日(金)

- 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- 社会福祉法人全国盲ろう者協会
- 全国手をつなぐ育成会連合会
- 公益社団法人日本看護協会
- 公益社団法人日本精神科病院協会
- 全国社会就労センター協議会
- 全国就労移行支援事業所連絡協議会
- 特定非営利活動法人全国就業支援ネットワーク
- きょうされん

6月2日(火)

- 一般社団法人日本筋ジストロフィー協会
- 公益社団法人全国脊髄損傷者連合会
- 一般社団法人日本ALS協会
- 公益財団法人日本知的障害者福祉協会
- 全国身体障害者施設協議会
- 特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク
- 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会
- 障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会
- 特定非営利活動法人DPI日本会議
- 全国自立生活センター協議会

6月9日(火)

- 社会福祉法人日本盲人会連合
- 特定非営利活動法人日本失語症協議会
- **特定非営利活動法人日本脳外傷友の会**
- 一般社団法人日本難病・疾病団体協議会
- 特定非営利活動法人難病のこども支援全国ネットワーク
- 公益社団法人日本医師会
- 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会
- 公益社団法人日本精神保健福祉士協会
- 特定非営利活動法人全国精神障害者地域生活支援協議会
- 一般社団法人日本精神保健福祉事業連合
- 全国精神障害者社会福祉事業者ネットワーク
- 一般社団法人日本精神科看護協会
- 全国「精神病」者集団

6月15日(月)

- 一般社団法人日本自閉症協会
- 一般社団法人日本発達障害ネットワーク
- 一般社団法人全国児童発達支援協議会
- 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会
- 社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会
- 公益社団法人日本重症心身障害福祉協会
- 全国重症心身障害日中活動支援協議会
- 一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
- 全国肢体不自由児施設運営協議会
- 全国知事会
- 全国市長会
- 全国町村会

地域生活支援事業について (主な見直し内容)

- (1) 雇用施策との連携による重度障害者等就労支援事業(仮称)【新設】(市町村事業:任意事業)
- (2) 障害者ピアサポート研修事業【新設】
(都道府県事業:任意事業)
- (3) 障害福祉のしごと魅力発信事業【新設】
(都道府県事業:任意事業)

令和2年度予算案 地域生活支援事業部(都道府県事業)

- 1 サービス・相談支援者・指導者育成事業
 - (1) 障害支援区分認定調査員等研修事業
 - (2) 相談支援従事者等研修事業【拡充】
 - (3) サービス管理責任者研修事業【拡充】
 - (4) 居宅介護従事者等養成研修事業
 - (5) 障害者ピアサポート研修事業【新規】
「障害者や事業所の管理者等を対象にピアサポーターの養成や、管理者等がピアサポーターへの配慮や活用方法を習得する研修を実施」
 - (6)
 - ・
 - ・
 - (27)

障発0306第12号
令和2年3月6日

都道府県知事
各殿
指定都市市長

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
(公印省略)

障害者ピアサポート研修事業の実施について
自らも障害や疾病の経験を持ち、その経験を活かしながら、障害福祉サービス事業所等で働き、他の障害や疾病のある障害者のための支援を行うピアサポートの取組については、障害者の地域移行や地域生活の支援に有効なものである。
このため、今般、障害福祉サービス等におけるピアサポートを担う質の高い人材を確保する観点から、新たに別添のとおり「障害者ピアサポート研修事業実施要綱」を定めたので、本事業の円滑な実施について特段のご配慮をお願いする。

令和3年度 第1回支援コーディネーター全国会議
実績報告会
令和3年6月23日（水）

山梨県の取り組み

山梨県高次脳機能障害者支援センター

支援コーディネーター 平原由梨子（作業療法士・社会福祉士）
支援コーディネーター 三澤 知恵（臨床心理士・公認心理師）
（医療法人銀門会甲州リハビリテーション病院）



甲州リハビリテーショングループ



グループ理念
「心をこめ 保健・医療・福祉で 地域に貢献」

当グループは

山梨県笛吹市を拠点として、

■医療法人銀門会

甲州リハビリテーション病院

甲州ケア・ホーム

■社会福祉法人寿ノ家

■株式会社サンライフ寿

の3法人で構成されています。

山梨県内各地で

リハビリテーションを中心とした
各事業を展開しています。

甲州リハビリテーション病院 施設概況

- 病床数：180床 【内訳】一般病棟46床（障害者病棟），回復期リハビリテーション病棟134床
- 診療科目：リハビリテーション科・内科・神経内科・外科・整形外科・循環器内科・脳神経外科・リウマチ科・精神科・歯科

■施設基準等：

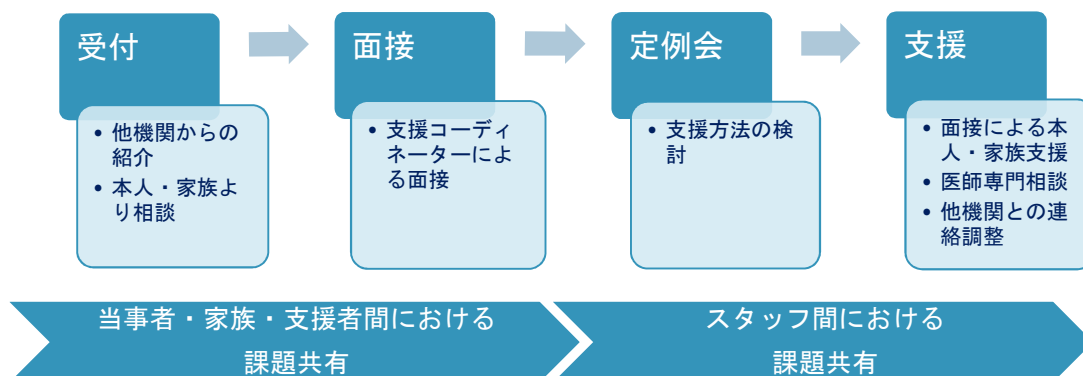
- 【入院料】 回復期リハビリテーション病棟入院料1
障害者施設等入院基本料10：1
- 【リハビリ】運動器リハビリテーション（I）
脳血管疾患等リハビリテーション（I）
呼吸器リハビリテーション（I）
廃用症候群リハビリテーション（I）
がん患者リハビリテーション



山梨県高次脳機能障害者支援センター

3

センターにおける個別支援の流れ



山梨県高次脳機能障害者支援センター

4

スタッフ間の情報共有方法

定例会

- 毎週木曜日 13:10~13:30
- 情報共有, 確認, 第一木曜は事例検討会開催

月例会

- 毎月第二木曜日 13:10~14:00
- 月例報告, 事業進捗確認, 検討事項等

ツール

- 社内LANや社内メールの活用
- 貸与スマホによる通話・チャット, Zoom 他

山梨県高次脳機能障害者支援センター 活動状況

山梨県高次脳機能障害者支援センター

《支援拠点事業の目的と内容》

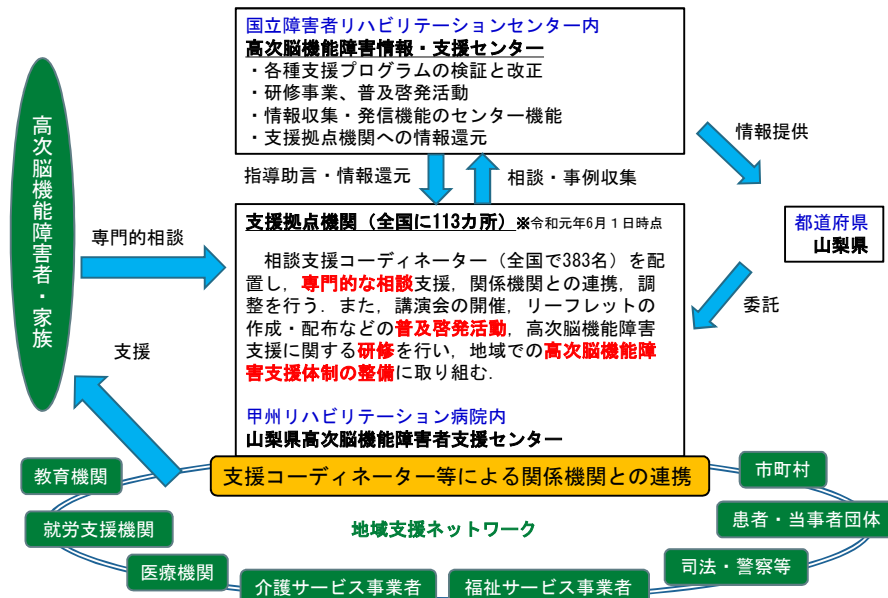
- ①専門的な相談支援
- ②医師による専門的相談
- ③普及・啓発
- ④関係機関との支援ネットワークの充実

(山梨県高次脳機能障害者及びその関連障害に対する支援普及事業実施要項)

山梨県高次脳機能障害者支援センター

7

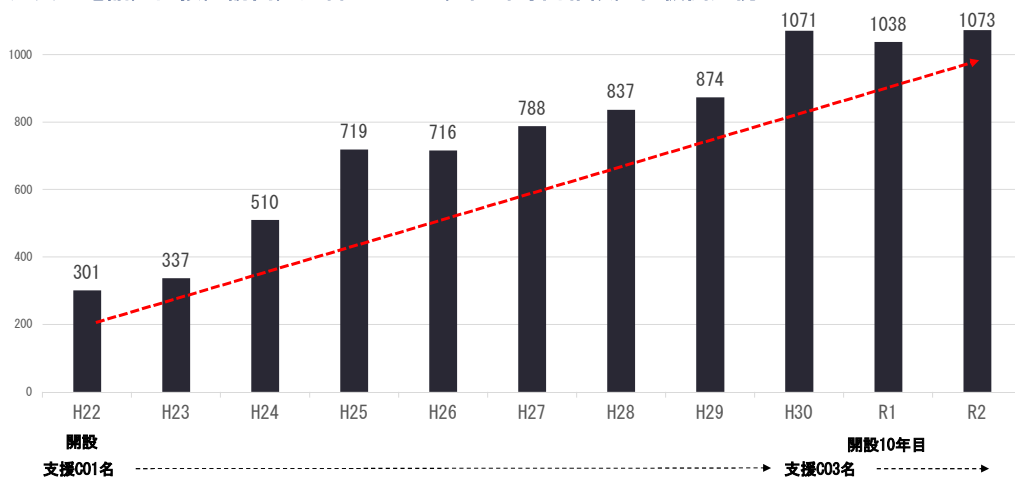
山梨県高次脳機能障害者支援センター（山梨県委託事業）



8

延べ相談件数（平成22～令和2年度）

方法：電話、面接、訪問、文書・メール、医師専門相談、他機関連携



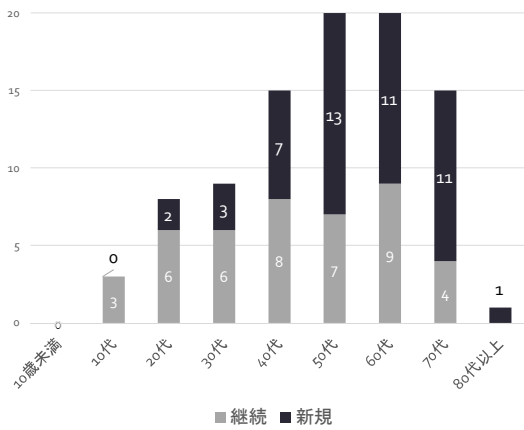
9

令和2年度の実績

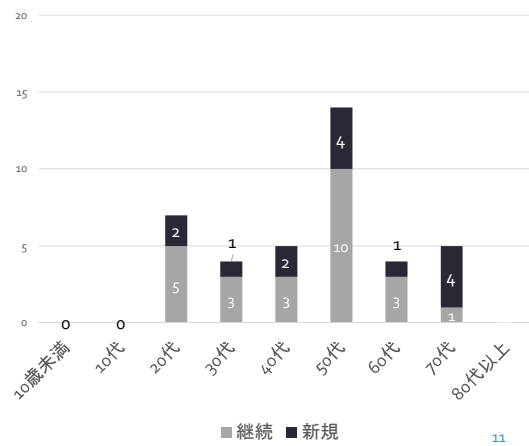
※年齢・性別不明（新規） 1名

年齢・男女別（実人数131名、うち新規63名）

男性（継続・新規）91名



女性（継続・新規）39名



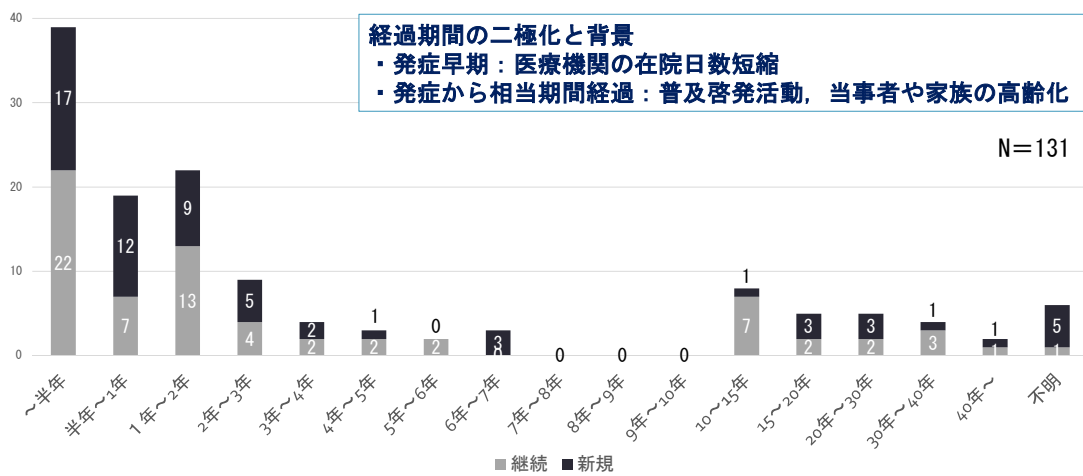
11

発症から相談までの経過期間

経過期間の二極化と背景

- ・発症早期：医療機関の在院日数短縮
- ・発症から相当期間経過：普及啓発活動，当事者や家族の高齢化

N=131



12

普及啓発活動

- ホームページ開設
<https://www.krg.ne.jp/rehabili/koujinou>
- リーフレット, **支援マップ**, **支援ガイドブック**
- 講演会開催
- 山梨県福祉保健部健康増進課 公式Twitterより配信
- 甲州リハビリテーション病院
地域包括ケア推進部 公式Facebookグループより配信



支援ガイドブック作成（令和2年度）

- **ワーキング・グループ**と協力して作成.
 - 診断基準, 主要症状及びその対処法.
 - 標準的支援やリハビリテーションの流れ.
 - 各種相談窓口や利用可能な制度.
 - **支援マップ**（医療機関）も改訂し掲載.
 - ホームページ掲載, **初版は印刷・配布**.
- 作成にあたり, 複数の支援拠点機関にご協力いただき, ありがとうございます

山梨県
高次脳機能障害
支援ガイドブック



山梨県高次脳機能障害者支援センター

講演会（令和2年度）

- ・ 感染拡大を鑑み、**同日程でオンライン開催に変更。**
- ・ テーマ：

山形県高次脳機能障がい者支援センターの活動から、
個別性を大切にした生活支援

～社会復帰トレーニング教室「暁才」の挑戦～

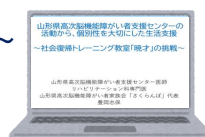
- ・ 講師：

豊岡志保先生

山形県高次脳機能障がい者支援センター医師 リハビリテーション科専門医

山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」代表

山梨県高次脳機能障害者支援センター



主催：山梨県高次脳機能障害者支援センター・山梨県
令和2年度講演会

テーマ：
山形県高次脳機能障がい者支援センターの活動から、
～個別性を大切にした生活支援
～社会復帰トレーニング教室「暁才（ぎょうさい）」の挑戦～

※感染拡大防止のため、山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動から、個別性を大切にした生活支援～社会復帰トレーニング教室「暁才（ぎょうさい）」の挑戦～というテーマで講演させていただきます。

日期：令和2年11月27日（金） 14:00～16:20
会場：山梨県高次脳機能障害者支援センター会議室
対象：県民一般、市町村関係者、支援者など（定員300名）
申込：無料（事前登録が必要です） 申込締切日：11月25日（木）
申込方法：山梨県高次脳機能障害者支援センターウェブサイト（申込フォーム）から申し込まれます。

講師：豊岡志保先生
所属：山梨県高次脳機能障がい者支援センター医、リハビリテーション科専門医

13:50 開場（200名）開始
14:00 開会（豊岡先生・スタッフより挨拶、主催者挨拶、山形県高次脳機能障がい者支援センターの活動から、個別性を大切にした生活支援～社会復帰トレーニング教室「暁才（ぎょうさい）」の挑戦～の紹介）
14:10 講演
14:20 質疑応答、講演終了後懇話会があります。
15:10 休憩（アンケート・休憩、軽食200名）

【講演会参加方法】
1. 山梨県高次脳機能障害者支援センターウェブサイト（申込フォーム）から申し込み、申し込み完了メールを受信してください。
2. 申込完了メールが届いたら、お申し込みいただいたメールアドレスに、お申し込みの受付状況を確認してください。
3. 山梨県高次脳機能障害者支援センターウェブサイト（申込フォーム）から申し込み、申し込み完了メールを受信してください。
4. 山梨県高次脳機能障害者支援センターウェブサイト（申込フォーム）から申し込み、申し込み完了メールを受信してください。
5. 山梨県高次脳機能障害者支援センターウェブサイト（申込フォーム）から申し込み、申し込み完了メールを受信してください。

【お問い合わせ先】
山梨県高次脳機能障害者支援センター（〒981-8511 山形県山形市）
TEL：055-262-3211（代機）
Eメール：hoshu@hoshu.jp

支援手法に関する研修（令和2年度）

関係団体への研修講師派遣

- ・ デイサービスセンターきぼう富士川事業所
職員学習会（参加者8名）
- ・ みんなの家つる（小規模多機能型居宅介護事業所）
職員学習会（参加者10名）
- ・ 笛吹市東部長寿包括支援センター
地域ケア会議 助言者（参加者14名）

地域支援ネットワークの充実

「既存ネットワークを活かし有効に活用する」

「普及啓発，研修，相談支援を通じ地域支援ネットワークの整備に取り組む」

【主な取り組み】

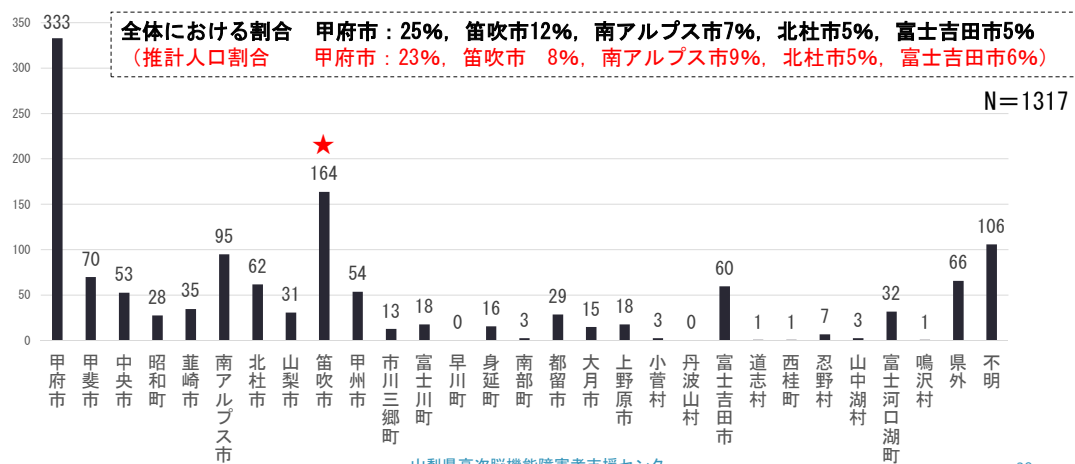
- 個別支援事例を通じた具体的な支援の連携
- 地域自立支援協議会への参加
- 専門職職能団体等への協力要請
- （相談支援体制整備事業）圏域マネジャーとの連携
- 関係機関（県，市町村，新聞社等）への協力要請

その他（令和2年度）

- 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議 幹事県
初のZoom会議形式開催
- 山梨県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会
初の書面開催

サテライト相談窓口事業

市町村別 相談実人数 (平成22～令和2年度の合計)



今後に向けた相談支援の検証の必要性

- 山梨県は、支援拠点機関を県土中央部に1か所設置.
- 相談者数の市町村によるばらつきがある.
- 絶対数は、近隣に多く、遠方エリアに少ない.
- 電話、面接（来所・訪問）、メール・文書による支援.
- 活動する中で、各地の潜在当事者が相談につながる.

サテライト相談窓口事業開始の経緯

- 令和元年度山梨県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会にて報告.
- 切れ目のない相談支援体制整備を目指す中,
 - 「相談実績のない地域にも、潜在的な相談支援ニーズが存在する」
 - 「要因の一つとして、物理的距離があること」
- ➡ 検証するべく、令和2年度の当センター事業として実施が決定.
- 期間：数年間の実施.
- 事業成果：今後の相談支援のあり方の検討材料とする.
- 事業準備：ワーキング・グループの発足、支援ガイドブック作成と共に.

サテライト相談窓口（令和2年度）

- ・相談実績が少なく物理的距離があるエリア.
- ・各エリアの保健所を置く県合同庁舎内会議室.
- ・4エリア×各3回，計12回.
- ・支援コーディネーターの派遣，相談会開催.
- ・県及び当センターホームページ掲載.
各市町村広報誌掲載.
（県独自事業）圏域マネージャーによる発信.

令和2年度 参加・相談 無料

山梨県高次脳機能障害者支援センター
サテライト相談窓口を開設します

事故や病後のけが、脳卒中などのあとに生じる高次脳機能障害（こしじのうきのうち）に悩んで、支援コーディネーター等に相談にのじます。当センターまで距離が遠く長時間移動が必要な状態を付帯して実施します。三二講座のみの参加や、エリアを越えた参加、県中エリアや峡東エリアの方の参加も可能です。お気軽にお立ち寄りください。

【会場・日時】
 県東エリア：北相模合同庁舎102会議室
 4月15日（水）、8月19日（水）、12月16日（水）
 県東北信エリア：富士吉原合同庁舎
 5月27日（水）2回大会議室
 8月26日（水）、10月28日（水）3回中会議室
 県南エリア：南相模合同庁舎2階
 6月17日（水）1回会議室
 10月21日（水）、2月17日（水）2回会議室
 県東部エリア：次町市総合福祉センター3階研修室
 7月15日（水）、9月16日（水）、11月18日（水）

【内容・スケジュール】 ※各回共催
 13:45～ 受付
 14:00～14:30 高次脳機能障害に関する三二講座
 14:30～14:40 休憩・相談会準備
 14:40～16:00 相談会

【相談会の対象】
 高次脳機能障害が疑われる方、診断された方、ご家族、関係者、支援者（教員、相談員など）

事前申込は不要ですが、事前にご連絡いただけることをスムーズにご案内できます。

【お問い合わせ先】

山梨県高次脳機能障害者支援センター（常時・平日・三連休）
 〒406-0032山梨県東御市石和町四日市場2051
 （常時）055-262-3121（代表）
 電話：055-262-3121（代表）
 FAX: 055-262-3271（代表）
 Eメール: koshu-hhd@krg.ne.jp
 URL: <https://www.krg.ne.jp/rehabili/koujinou.htm>

山梨県高次脳機能障害者支援センター

23

COVID-19の影響と対応

- ・山梨県の緊急事態宣言解除を受け，対応を確認。
感染予防策を取り，計画通りの実施要請あり。
- ・内容は規模を縮小し，相談会中心の実施を検討。
- ・今後の感染拡大も視野に，オンライン相談も提案したが，
相談者や支援者の速やかな通信環境の整備は困難。

令和2年度は本事業の当初計画に基づいた実施を決定

山梨県高次脳機能障害者支援センター

24

サテライト相談窓口実績（令和2年度）

エリア・会場	開催日	相談件数・来所者数
【峡北】北巨摩合同庁舎	4月15日, 8月19日, 12月16日	1件・2名
【富士北麓】富士吉田合同庁舎	5月27日, 8月26日, 10月28日	5件・6名
【峡南】南巨摩合同庁舎	6月17日, 10月27日, 2月17日	4件・10名
【東部】大月市総合福祉センター	7月15日, 9月16日, 11月18日	2件・4名

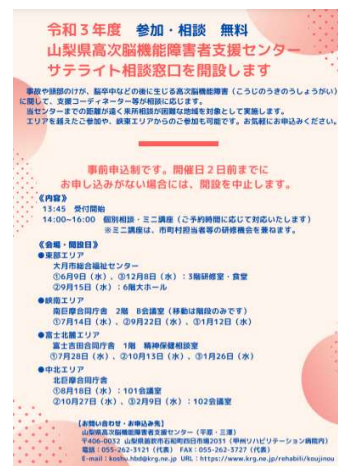
- ・ 相談件数計12件のうち、**当センター相談歴のない初回相談が11件**
- ・ 来所者計22名（内訳：当事者5名，家族3名，支援者14名）

《主な相談内容の傾向》

後遺症診断未確定の方の支援（評価・診断・リハビリテーション，社会資源活用）
回復期リハビリテーション病棟等退院後の支援（就労・運転・精神障害者保健福祉手帳更新）
支援普及事業開始前に受障した方の相談・当事者の高齢化（介護保険の利用検討）

サテライト相談窓口（令和3年度）

- ・ 昨年度同様のエリア・会場・回数・時間
- ・ **事前申込制**
- ・ 相談会とミニ講座の柔軟な開催
（市町村担当者等の**研修機会を兼ねる**）
- ・ 広報活動の強化
チラシ作成・印刷
市町村窓口や病院へ配布・**直接周知**



まとめ

- 地域特性を考慮した，柔軟な相談支援体制の検討が必要.
- コロナ禍で，相談者・家族は特に，地域で孤立傾向.
- 改めて，当センターの存在や機能・役割の再周知が必要.

課題

- 切れ目のない支援に向けた，医療機関における協力体制強化
標準的評価・診断・リハビリテーション，診断書作成や地域連携
- 関係機関等への協力要請の継続
- コロナ禍における柔軟な対応と工夫
相談支援：訪問・メール（従来通り），アウトリーチ型相談体制
普及啓発：オンライン講演会，ホームページやSNSの活用
支援ネットワーク：オンライン会議の開催・参加，広報の強化

地域の支援者向け 事例検討会の持ち方について

国立障害者リハビリテーションセンター

今橋久美子

■ 目標：地域の支援者（障害福祉/介護事業所等）向けの事例検討会を企画する

本日の手順：

1. 課題提示
2. グループ検討
発表者決定
3. 発表（15：25～）
4. 意見交換・質疑

課題提示

Aさん（50代男性）

- 1年前に外傷性クモ膜下出血で救急入院した後、自宅で療養していた。
- 知人から高次脳機能障害ではないかと言われたことを機に診断を受け、相談の結果、就労継続支援B型事業所の利用を検討することになった。
- 近隣のB型事業所から「高次脳機能障害の支援経験が無いので、支援のポイントや留意点を教えてほしい」という要望があった。
- そこで、事例検討会を開くことになった。

グループ検討事項

1. 構成メンバー：
2. 場所：
3. 時間配分・進め方：
4. 事例提供者・方法：
5. 準備・手続き：
6. その他